

岩手郡医報

No. 10

編集/発行
岩手郡医師会

岩 手 山

去る一月三日、所用で羽田から三沢までとんだ折の写真です。何時も下から見てた山容と、7千米の高所より見下ろしたのとは趣きが変わり、珍しい眺めでした。

天候、時間、場所に恵まれ、居眠りして居たのを、家内に起されて、寝ぼけ眼で撮ったにし

ては、マアマアの出来と考えております。

一見、富士山の様に見えますが、正真正銘の我等の岩手山です。

(早藤)

行事関係報告

1. 日医関係

- (イ) 日医花岡新会長より就任の挨拶状あり。
- (ロ) 6月10日日医裁定委員3人の補欠選挙の通知あり。

2. 県医関係

- (イ) 5月19日昭和56年度3期分の交付金下記の通り県医師会より交付せられる。

記

- (イ) 乳児等医療助成事業交付金 170,820円
- (ロ) 母子家庭医療助成事業交付金 65,340円
- (ロ) 5月29日学校医部会幹事会開催さる。

部会長	三浦新也
副部会長	近藤一 _西 正
全	橋本種仁
全	小川英治

現在耳鼻科検診が大きなネックとなって居りますが、日本耳鼻科学会で標準的集検法を検討中の事ですので近くまとまる様です。

- (イ) 6月10日県医師会にて医事紛争対策委員会開催さる。現在係争中のもの数件あり。本件の役員下記の通りです。

会長	三浦新也
副会長	石川育成

尚石川副会長より個々の事例について詳細に説明あり。吾々会員も心すべきこと多數あり。当郡医師会に於ては石川育成先生の都合を伺ひ、各支部毎に講演会を開催することが最良の方法ではないでせうか。

- 支部長各位の検討を望む。
- (二) 6月15日労災医部会開催される。詳細は次号に。
- (ホ) 6月26日久慈市に於て県医理事会及び日本医予備代議員補欠選挙のための県医代議員

会開催の通知あり。

- (ヘ) 6月27日久慈市に於て昭和57年度県医経会並岩手医学会春季医学会開催せらる。
- (ト) 本年度県医師会親睦海釣大会は紫波郡医師会の担当にて7月18日釜石市小白浜にて行はる。
- (チ) 6月27日久慈市に於ける総会の席上の表彰者として当会員土井尻正次先生決定の通知あり。御目出度ございます。
- (リ) 久慈市に於ける総会後の祝賀会に昨年11月勲5等瑞宝章を授賞せられたる当会員小原富雄先生招待せらる。御目出度ございます。

- (ヌ) 岩手県医師会野球大会が東磐井郡医師会の担当で8月22日千厩町にて行われる予定。我が方のメンバーは下記の通り。

監督	近藤 純造	左翼手	本山 渉
監督	秋浜 晃	中翼手	佐々木久夫
投手	佐藤 郁郎	右翼手	高橋 司
捕手	宮沢 譲	補欠	遠藤 哲夫
一塁手	高橋牧之介	"	八角 正司
二塁手	岡田 信親	"	土谷 邦彦
三塁手	嶋 信	"	久慈 宥一
遊撃手	西島 康之	"	中村 朗

以上16名登録済。

尚、大会に備えての練習試合は恒例の如く薬屋セールス連合軍と7月25日小岩井球場にて行う予定。

3. 郡医関係

- (イ) 会員の移動

- (ロ) 入会

葛巻病院に	岡田信親（小児科）
	塚谷榮紀（産婦人科）
	高橋克郎（外科）

以上 岩手医大より
東八幡平病院に 黄鐘 頤
(国保長門町病院)

(ii) 退会

東八幡平病院より 佐々木国勲
(他都市医師会に)

(口) 5月12日西根町高橋食堂にて理事、監事、
県医師会各部会委員並第二支部会員の協議
会を開催す。昭和58年度県医総会並に春季
医学会開催担当の関係上関係地区の会員の
出席を要望す。特に総会開催予定地の西根
町助役さんの御出席をいただき厚く御礼申
し上げます。

協議事項下記の通り

記

- (i) 久慈市における総会並に医学会への出
席及び視察分担について
- (ii) 県医総会の表彰会員の内申について
~~病~~
会場一致土井尻先生を推せんす。
- (iii) 老齢及び病弱会員の取扱いについて
- (ハ) 5月26日岩手町奈良屋に於て理事、監事、
県医師会各部会委員及第一支部会員の協議
会を開催す。

協議事項下記の通り

記

- (i) 久慈総会の視察分担について
次の通り決定す。(略敬称)
総括 上野、土谷
総務 宮杜、早藤、宮沢
会場(総会医学会共)近藤、島、岡田
接待 瓜田、高橋牧、上田、山田
案内 坂井、森
懇親会 秋浜、西島、高橋牧
観光 熊谷文、鈴木
アトラクション 土谷、佐渡
尚前夜の会合については宮杜、土谷、
秋浜の三氏に一任。

(ii) 昭和57年岩手県健康講座について

開催地 滝沢村
担当責任者 高橋 牧~~之助~~
外零石町より宮杜

玉山村より秋浜

の両氏と開催地滝沢村より運営委員を委
嘱し后日協議決定のこと。

尚講師不足の際は第3支部内にて応援
することとす。

(iii) 昭和57年各部の計画を至急立案のこと。

(iv) 尚協議会終了后4月1日着任の岩手保健
所長南沢君平先生及び岩手警察署長地
紙勝司両氏の歓迎を兼ねて懇親会を開催
す。

(二) 其の他

4月14日管内各学校養護教諭に対し参考
文献を送付す。

4. 予防医学協会関係

5月27日グランドホテルに於て評議会開催
される。

前会長岩動先生は 名誉会長に

新会長 八木義郎先生

新副会長 加藤十郎先生 と決定す。

(i) 元会長故佐々木一夫先生遺族より100
万円の寄附申込みを予防医学事業中央会
を経由して協会に入り佐々木文庫の名目
で医学大辞典を購入したいとのことなり。

(ii) 日本船舶振興会より本年度成人病検診
用機械整備のため2,800万円補助される。

(iii) 人間ドックの収入減が目立ち(4,500
万円)の減にて結局2,600万円の赤字決
算となる。

(iv) 職務の関係で評議員の変更あり。

5. 医師信金関係

役員の大巾な変更があり、

新理事長 萩野勤治先生

尚新理事として当会より秋浜先生当選す。

今後の御活躍を祈る。

6. 8月の県医野球大会の案内が東磐井郡医師会よりあり。

参加すべく現在近藤監督のもとでメンバー編成中なり。

選手諸先生の御活躍を祈る。

7. 其の他

(イ) 盛岡税務署長より青色専従者の給与額の適正化についての連絡あり、A会員各位には文書にて連絡済なり。

尚後日重ねて盛岡税務署直税課の主幹職員が参り岩手郡医師会関係者は特によくなとのことなり。

適切でなかった方は反省の上是正せらるるよう望みます。

(ロ) 先に実施しました昭和57年度健康講座零石会場及西根会場のアンケート調査が出来上りました。

零石、西根両会場の調査結果は次の通りです。

次回の参考とせらるる様お願ひ致します。

- ・有意義な講座であった。今後も開催してほしい。
- ・本講座を受けて、病気の早期発見・早期治療がいかに大切なかわかった。
- ・1科目の時間が短いため、講師が十分に話をできなかつた気がした。
- ・もっと身近な病気の予防・症状等を詳しく聞きたい。
- ・専門のことよりどうしたら病気になるか、どうしたら防げるかを詳しく知りたい。
- ・わかりやすい言葉で簡単に説明してもらいたい。
- ・成人病について医学面からと食事面からの両方合せた講義は良かった。

- ・次回は精神衛生関係の講義も聞きたい。
- ・医師本をそのままテキストにして説明がちっともわからない先生がいた。
- ・講師1人1人の講義の内容をもう少しつめて、すっかり理解できるようにしてほしい。
- ・町内の先生の話を聞く機会にも恵まれ、改めて健康の大しさを感じた。
- ・歯科関係の講義も聞きたい。
- ・神経痛の講義も聞きたかった。
- ・今後も年々程度を高くしてほしい。
- ・糖尿病についてもっと詳しく知りたかった。
- ・病気になった時に相談ができるところを教えてほしい。
- ・保健所の栄養士の講義がとてもわかりやすかった。
- ・質問の時間をもっと長くとってほしい。
- ・講座のPRをもっと早くから広範囲にしてほしい。
- ・保健員の人ばかりでなく、各種団体のリーダーの人達も参加させたらどうか。
- ・もっと若年の人達にも参加の呼びかけをしたらどうか。
- ・今後は男性にも参加をすすめたらどうか。
- ・送迎バスなどを運行すれば良い。
- ・会場が非常に寒かった。
- (ハ) 昭和56年度県下15都市医師会が担当されました他会場に於けるアンケート調査を要約いたしますと次の通りです。
- 受講者側の希望
- ・専門的な用語は解らない。
- ・横文字（独逸語）は解らない。
- ・医学の本のまる読みは困る。
- ・5回ではなく7回位に分けて長期に亘って開催してほしい。
- ・歯科関係も入れてほしい。

- ・スライドは後方は見えない。
- ・予防医学的な時間も欲しい。
- ・質問の時間が欲しい。
- ・1日2時間で長期に亘って欲しい。
- ・会場が寒かった。

以上の外私共として一大困難な要望は次の通りです。

- ・会場までの送迎バスを出して欲しい。
- ・午前中に開いて欲しい。

結論として

- ・毎年開いて欲しい。
- ・非常に有意義であった。

この2点は各会場共圧倒的多数です。

会員の皆さん、この町村民の要望を肝に銘じ今后とも私共医師に与えられた使命として住民に答へる様いたしたいと思ひます。

只受講者は医師でもなく医学生でもなく一般の方であることを念頭において努力しませう。

(二) 5月26日休祭日当番補助金より各支部に対し下記の通り補助金を交付す。

	記
1支部	186,000円
2支部	214,000円
3支部	269,000円

以上

鳴呼あの頃（其の九）

上野精三

北国弘前も8月となればやはり暑い日が続きました。只私共捕われの身になれば、暑いと云って騒いでも涼しくなるわけではありません。従って前述の通り軍隊では暑い又寒いという言葉は禁句がありました。この暑い1ヶ月を如何にして過すか？私共の悩みの種でした。月間私共の主なる行事は次の様な事例がありました。

1) 隊内のざわめき

軍の8月の定期移動で新たに着任の将校が多くなり、私共も敬礼に追われるのです。何分満州事変の真只中で、従って将校も下士官も張り切り過ぎて居るので、万一欠礼でもするものなら大喝される訳で全く油断も隙も出来ない1ヶ月でした。ただし終戦後マスコミ或は一部の特定の旧兵士が宣伝した様なビンタやリンチは全くありませんでした。

2) 衛生隊演習について

本来この衛生隊演習は、師団司令部所在地の歩兵聯隊が主体となって実施するものです。

従って動員になれば、歩兵聯隊長が編成担任官となって編成される訳です。

この衛生隊の完全編成の演習は未だ日本軍で実施したことがなく、2年乃至3年に1回8月に3分の1編成の演習だけでした。

完全編成は大（中）佐を長とし、歩兵の担架3ヶ中隊、輜重1ヶ中隊、この輜重1ヶ中隊は人員が多く、歩兵3ヶ中隊と同じです。それに衛生部員は医長（中佐）外軍医将校15名、薬剤将校3名、外衛生下士官、衛生兵300名、其の外主計将校全下士官総員2,000名と云うのが本当の部隊です。支那事変勃発以来昭和13年迄の出動師団はこの完全編成ですが、昭和14年以降出動師団は3分の1編成で出動して居りました。よく応召の際歌われた軍歌にある 戰地で名誉の負傷して

収容せらるゝ將卒の
命とたのむは衛生隊
これでした。

8月実施の衛生隊演習は3分の1編成で演習召集されました。私共幹部候補生の2期先輩に北上市で開業、後故人となられた飯田研三先生が居られました。飯田先生は昭和12年9月充員召集となり、歩兵第105聯隊青森編成で、除州会戦のあと、コレラ聯隊と言われた（当時私共はコロリ聯隊と称した）部隊の高級医官として奮戦されました。

又、召集者に大槌町出身の古川小太郎先生も参加されて居りました。古川小太郎さんは東北大医学部出身で、昭和12年支那事変の1番最初の召集で、秋田で編成された当時日本の陸軍の秘密兵器と云われた迫撃砲部隊、つまり独立迫撃第三大隊（秘匿名・赤間部隊）に属し中支方面で名誉の戦死を遂げられた方です。

この演習の間、私共幹部候補生は未だ一人前の軍医でない為、見学兼演習観戦者である弘前市、同周辺の高等女学校の生徒の引率を命ぜられ演習中、戦場審判官である中（少）佐の現役将校の質問の矢張に立たされた訳です。若い独身の私共は15-17才の女学生の前で絞りあげられるのでまったくつらい思いをしました。ただし、絞る方は馬上で得意氣でした。これを悪趣味と云うのです。

只この衛生隊演習の状況は、後年衛生隊附医官として約1年6ヶ月山西省で戦斗してみて余り効果は認められませんでした。

私が昭和13年5月第108師団衛生隊附として参戦中の医長は、現役の陸軍軍医学校教授で、衛生要務を担当せられて居る方であり、衛生隊作業を一部変更するのが目的で医長をされて居りました。この様な目的の方の部下になった私共こそ迷惑この上ない訳です。

従って同僚衛生部員の損害も多かった訳です。

3) 8月下旬の軍隊行事

学校なれば夏休み、官衛であれば年休をまとめて取って、旅行、海水浴、山遊びの時期です。

私共捕われの身にはこの様なことは全く無縁のものです。私共はこの様な休みは何もいらない。日曜、祭日も休まず練兵に努め、その分何日でもよいから早く除隊をいたしたいのです。

併しこれもまゝなりません。今月経過すれば、あと91日で目出度く満期除隊の晴れの日を迎えることが出来る訳です。

なかには、除隊の際の申告の予行をする者も出てきました。

例 陸軍衛生部幹部候補生○○○○

今般○月○日を以て（目出度くの字句を入れたいが駄目でした。）

満期除隊を命ぜられました。茲に謹んで申告いたします。

ところが、この謹んでを、喜んでと言ひ換えた同僚があって、後日教官S中尉の知るところとなりお叱りを受けた次第です。

只、申告いたします。の次に、更に御礼の言葉を申し上げなければなりません。

これは「私共一同10ヶ月の在隊間大過なく過し得ましたことは、これ偏えに中隊長殿はじめ中隊附将校各位並びに下士官各位の平素の御薰陶の賜物と衷心より厚く御礼申し上げます。除隊を致しまして郷土に帰りましても、平素の訓えを守り郷にありては国民の模範となり、一旦緩急の際はお召しに預かり帝国陸軍人として御奉公の誠を尽す覚悟で御座います。以上終り。

これを約3ヶ月間も前から反覆練習するのを楽しみにして居りました。

只この気持は後年応召の身となって内地勤務6ヶ月、戦地勤務7年、更に内地勤務6ヶ月、つまり満8ヶ月の間、飲酒の後は、何時転勤命令が来ても困らないように練習だけは

積んで居りました。甚だ不心得な帝国陸軍軍人もあったもんだと皆様は思われたことと思ひます。

とにかく満期除隊3ヶ月も前から除隊の日にそなえ準備だけは怠りなく暮して居りました。

「無用の用」と「詰め草」

高橋牧之介

車が走る時、タイヤが路面に接するのはタイヤの幅だけであり、人が橋を渡る時、足が橋に接するのは足裏の広さだけである。

そこで理窟の上では、車道は左右の車輪の幅だけあれば車は通れるし、橋や歩道は靴や下駄の幅だけあればよいということになる。しかしそれは理窟の上だけのことでの、実際には、その幾倍もの余分の広さが必要である。

それは道路や橋だけのことではなく、世の中には一見無用なように見えて、実際には有用な事柄が沢山ある。昔の中国の賢人は、これを「無用の用」と称していた。

○

休診日などに郊外に出て田圃道などを歩くと、減反・転作・休耕田や、道端にクローバが勢いよく繁茂しているのを見かける。

クローバは帰化の植物である。明治になって外国からわが国にいろいろな物資が輸送される時、梱包した物の破損を防ぐため、箱の中の空いているところに、乾燥したクローバを詰め込んだそうである。わが国では見馴れないこの草を「詰め草」と呼んだ。

この草の種子がたまたま倉庫の附近などに散らばって、発芽・生育し、白い花や、紫の花が咲いたので、それぞれに「シロツメクサ」「ムラサキツメクサ」と命名したということである。

○

私のこの雑文は、「無用の用」になることを

次号は大隊長試験のため露營の間に同僚の友人の結婚式に乱入、新郎新婦参会者一同に迷惑をおかけしたことを述べます。

○

私は植物に関する知識が乏しいので、眞偽についての自信はないが、聞くところによれば、クローバは繁殖力が旺盛で、その種子は鉄道輸送の荷物などに附着して線路づたいに拡がり、また牧草・肥料用として農家などでも育て、今では全国至るところで見られるようになったそうだ。クローバと同じように鉄道線路に沿うて繁殖した帰化植物に、白い小さな花の咲く草丈の高いヒメジョンという雑草がある。これを俗に「鉄道花」と呼んでいる。この草は場所によつては他の雑草の群を圧倒して わがもの顔にはびこっている。西洋タンポポなどもこれに類するようで、今では在来のタンポポは殆んど絶滅に瀕し、吾々の見るタンポポの多くは、西洋タンポポである。

幾種類かの植物が群生しているところに、他から生活力のより強い植物が、何等の機会に侵入して来ると、在来の植物は駆逐され、新來の植物が繁茂するということが地球上各地で常に繰り返されているということである。

これは植物だけでなく生物界全般に通ずる現実であると聞いている。

水が低きに流れ、高気圧の地帯から低気圧の地帯に風が吹くのと同じであるように思われる。

人類は生物の一種である。個人としても、団体としても、前記のような傾向があり、国と国との間においても、文化・経済・軍備などに優れたいわゆる強大国は弱小国に、何等かの機会に何等かの形で侵入し、これを征服するようになることは避けられない人類の業のように思われてならない。このような考えは誤りで、強い

国は弱い国を助け、世界各国はやがては軍備を徹廃し永久平和になるということを、私は切に願うものである。

しかし、総ての人間が釈迦やキリストのようにならない限り、生物界の原則は、私の願いよりは遙かに強いように思われ、私の愁いはなかなか消えそうでない。

編 集 後 記

6月半ば、あまりの寒さにストーブをたいた日もあったのに、夏至も過ぎ七月の声を聞くと急に灼くような太陽の光があたりに照りつけ、東の空には積雲がむくむくと動き出し、暑い風が田や畠や街を通り過ぎる。

七月は老若の好悪をわかつ季節と云われる。若人は海山に行楽と共にたのしみ、老人は一人ぐちをこぼしながら空をうらむ。

毎年五月の所得番付では医師は上位を占め、人々からはうらまれる。

先月のテレビの対談の中で德州会の徳田虎雄氏は、今の点数では黒字にはなれない。黒字になるには稼働を多くするか、水増しをしなければ赤字になると、うそぶいている。

御自分だけが本当の医師として地域に貢献しているかのような言い分で、何うかと思われる。

日本医師会選挙で、花岡氏を推さなかったためか、今年度より厳重になる厚生省監査に岩手が選ばれている。

監査のピックアップの対照としては

- (1) 新規事業
 - (2) 平均点が高い。
 - (3) 往診、時間外が多い。
 - (4) 漫然と診療している。
- 等々が上げられるとのこと。

これもNHKテレビ“医療天国の破産”の中で現在の出来高払の保険制度では“医師は信頼の上でもかせられている”とか云っていた。

学校医部会でまとめた扁平足調査について、御意見をお寄せ願います。

今年度も岩手郡医師会の継続テーマになりますので。

表紙の写真は早藤先生のハネムーンライトかと思われます。

どうりでうまくうつってますな（M）

